

マイフーズ

目 標

- ・「ものをつくる、育てる」という直接体験を通して、その苦労や工夫を実感するとともに、農業や自然への敬意の念をもち、食糧生産の重要性に気付くことができる。

育てたい力

- 身近に食べている米がどのように生産されているのかということや携わる人々の努力や苦労から、食への感謝の気持ちを育む。
- 食糧生産に携わる人との交流の中で、生産者側の立場に立って考え、物事を多角的に見ることができる力を養う。

主な学習活動（田植え体験：5時間、稲刈り体験：5時間、贈呈式：1時間）

田植え体験

（5月）

- ・体験前に、授業で米に関する知識を身に付け、体験時には農協の方々との協力の下、苗の植え付けを行った。また、事前に考えてきた田植えの仕方や、米作りの疑問について更に質問、交流の機会を設け、米作りの知識を深めた。



稲刈り体験

脱穀体験
（10月）

- ・植えた苗の稲刈りを行った。また、事前に質問を考えて、農協の方々に米の成長の様子や稲刈りの仕方等について質問、交流の機会を設け、米の知識を深めた。



贈呈式

（12月）

- ・農協の方が、精米した米を持って来校し、贈呈式を行った。感謝の気持ちを伝えることはもちろん、精米になるまでの流れを知り、田植えから稲刈り、精米になるまでの流れを学習した。

取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは、「最初は手を鎌で切らないか心配だったけど、師匠から刈り方を教えてもらって、安全に稲を刈ることができました。」「この体験で、米作りについて、更に理解を深めることができました。」「これからは米を残さずに、食べていこうと思いました。稲刈りを通して、米がどのようにできていくかを実感できました。」「鎌を使ってみて、難しいと感じることがあり、師匠はすごいなと思いました。」などの感想が寄せられた。

取組の成果

田植えや稲刈りの体験活動を積み重ねるにつれて、一人一人が米を大切に扱う様子が見られるようになり、食のありがたさを実感することができた。

また、食に関する体験を通して、食に対する意識を高めることができた。給食中、食缶に残っている米があると、残さないように意識する言動が見られた。また、家でも食べ残しをしないように心掛けている話も聞かれるようになった。

体験先、関係機関

JA 新篠津（新篠津村）